

高齢化と医療費増で医療保険が危ない

制度改正と健康生活の両面で克服を

総務省は毎年、65歳以上の高齢者にかかる統計データを公表しています。直近のデータで高齢者人口は3461万人で、総人口に占める割合は27.3%と過去最高を更新しました。特に女性の割合が高く、初めて3割を超えました。国際比較でもイタリア(22.7%)、ドイツ(21.4%)、フランス(19.5%)など世界の主要国を大きく上回っています。

また、高齢者の就業者数は730万人で、就業者総数に占める割合も11.4%と人数、割合ともに過去最高を更新。就業率は21.7%で、これも主要国の中でトップです。

そんな高齢者世帯(世帯主が65歳以上で2人以上)の暮らしぶりをみると、この数年、インターネットなどを活用する高齢者が増加、健康に気を配り、趣味を楽しむ姿が見て取れますが、その家計は保健医療への支出割合が65歳未満の世帯平均の1.34倍と最も高くなっています。

一方、厚労省が公表した「国民医療費の概況」では、14年度の国民医療費は前年度より7千億円以上増加し40兆8千億円になることがわかりました。このうち高齢者の医療費は23兆9千億円(全体の58.6%)にもなります。人口1人当たりで見ると全体では32万1千円ですが、65歳未満の17万9千円に対して、65歳以上では72万4千円と約4倍になります。

こうした急速な高齢化と医療費の増加に何も手を打たなければ、わが国の医療保険制度は遠からず維持できなくなることは明らかです。このため健保組合と健保連は2つの面から活動を行っています。

1つは、将来も安心して医療が受けられるよう現行の医療保険制度を見直す活動。来る29日に全国1400の健保組合が東京に一堂に会す最大のイベント「全国大会」でも重要なテーマです。『改革の早期実現!次世代へ安心・納得の確保を!』を

副呼称に、「高齢者医療費の負担構造改革の早期実現」「皆保険の堅持に向けた健保組合の維持・発展」「実効ある医療費適正化対策の確実な実施」など4つのスローガンを掲げ、関係方面にその実現を強く働きかけていくこととしています。

もう1つは、自らの健康を維持していくことを支援する活動です。健保連は14年から「あしたの健保プロジェクト」のWEBサイトなどで、医療保険制度の仕組みや現状・問題点をわかりやすく解説しています。

今回、新たに「健康保険。わしらにもできることがあるのだ!!健康生活を始めよう!」のコーナーを新設し、天才バカボンファミリーが運動、食生活、禁煙、健診受診など今、求められている“できること”を解説しています。ぜひ、検索サイトで「あしたの健保」と入力し、クリックしてご覧ください。

